

「五ヶ寺」など元刈谷を巡る

6月21日刈谷市教育委員会主催の、史跡めぐり「元刈谷コース」に参加しました。普段は隣を車で通るだけで一度もお参りしていない本刈谷神社をはじめ、刈谷古城、五ヶ寺などを刈谷ふるさとガイドボランティアガイドの会のみなさんに、案内していただきました。



「本刈谷神社」と県指定の 「本刈谷貝塚」

楞嚴寺に8時30分前について受付をすませる、私はオレンジのグループになった。人数がそろい直にスタートした。ガイドの方は4人で一人は私たちの会員でもある都築さん、それに女性が一人いて交代して説明

してくれた。最初は歩いて数分のところにある本刈谷神社に向かう、この神社は元刈谷地内にあった八雲神社・北野社と熊村地内にあった八幡社の三社が大正2年に合祀されて、八雲社のあった現在の場所に奉還して本刈谷神社とした。そのため祭神は三社の祭神であったスサノオノミコト、菅原道真、ホムダワケノミコトを祀っている。神社の由緒書にはそれぞれの神社について説明がされている、八幡社は戦の神様で応神天皇を祀る、八雲社はあまり聞かないが、ここでは当地を開いた祖神を祀るとあり、昔は牛頭天皇と称したが明治元年に改めたとある。北野社は昔、野口天満宮と言ったがここも明治元年に改称したという。でも、なぜ改称したのかということは説明がなかった。

そして、境内末社として山神社・神明社・報国神社・明治川神社が祀られている。特徴は本堂が木造ではなく鉄筋コンクリート造りだと言うこと、でも、神社でこのような建物を見ると何故かありがたみが薄れてしまう気がしてならないのは私だけだろうか。

境内に立派な石碑が鎮座している、これに「愛知県指定史跡・本刈谷貝塚」と刻まれている。縄文時代晩期の貝塚で、神社境内から西隣の畑地や北の松林内にかかるエリアだ



鉄筋コンクリート製の本殿



パネルを使って出土品の説明

という。昭和 44 年に調査が行われ発掘されたのは、ハイガイが主で 10 数体の人骨やシカ、イノシシなどの骨も。鉢などの土器類のほか石矢じり、石錐など石器類や、鹿角製弓はずなどの骨格貝製品が出土して県指定文化財となっている。ガイドの方は出土品の写真を掲げて説明してくれたが、刈谷にはこんなすばらしい貝塚があるのだと、少し自慢げに話をしてくれたように感じました。

水野貞守が緒川城に続き造った「刈谷古城」

このあと地下道を通って刈谷古城へ向かう。ここに地下道のあることは知っていたが利用することはない。今回初めて通るが、壁面はギャラリーとしてたくさんの絵が掲示されている。でも少し暗い感じがするのはいたしかたないことか。

少し東浦寄りに戻って田んぼ道を行くと、六畳二間程の広さの田に蓮の花が咲いている。レンコンを栽培しているようだが、この辺りで見るのは珍しい。そして、造成中の少し広い場所で刈谷古城の説明をしてくれた。現在はこの辺りとしか説明できないけれど、水野貞守は緒川城を造った後の 1476 年頃に刈谷古城を造ったという。緒川城もそうであるように、造られた年代は定かではないが 1485 年の禅僧万里集九の「梅花無尽蔵」には「矢作在三川、蓋水野所在刈屋城三里」と古城のことが記されており、この時には間違いなく存在したと考えられている。その後、貞守・堅正・清忠のあと四代水野忠政が 1533 年に刈谷亀城を造った。

このように刈谷の地にお城が二度造られたことから、初めのお城は「刈谷古城」と呼ばれることになったと言う。去年は刈谷城築城 480 年を記念するシンポジウム等も開催されたが、このことから刈谷城と言うときは古城のことではなく、水野忠政が築城し

た亀城をさしている。つまり、刈谷ボランティアガイドのみなさんがこの歴史を説明しなければ、刈谷古城は歴史から消えてしまうだろう。とても良い説明を聞く事ができラッキーだった。

何故か五つのお寺が並び建つ

古城跡を後にして次は北野社と八幡社があった場所へ向かった。ほどなくしてとても狭い道へ入る、幅が三尺(90cm)もないまさに溝に蓋をただけの通路だった。私の地元生路を案内する時とても狭い道を通るが、ここはそれ以上に狭いと感じた。よその家へ入ってしまうのではと思いながら進むと、スイカや茄子などの畑に出た。その場所で二つの神社の事を説明してくれた、が、メモを取らなかったのも何も記憶がなくて分からない(すみません実はボールペンを忘れました、メガネは持参したのですが…)。

そこから郷中の道をたどり大日堂の建つ交差点を右に曲がるが、狭い道なのに車の通行はかなり多くて、端によって建物に張り付くようにしてしないといけない。大勢の人がぞろぞろ歩いているので大丈夫だが、一人で歩いているときなどは要注意だ。

大日堂の建つ交差点から北に向かうとまもなく西勝寺にぶつかる、そのすぐ西隣には実相寺があり、西勝寺から東には海会寺・長遠寺・専光寺と五つのお寺さんが、今は明治用水になっている、昔の元刈谷川沿いに建ち並んでいる。こんな近距離に五つもお寺さんが建っているのは何故なんだろう?? このことについては以前歴史講座の中で聞いたことがある、昔はこの辺りまで海の入江になっており、お寺さんではあるが砦の役割を持っていたものと考えられているとか。ちなみに五つのお寺さんの宗派は次の通りです。

- ①実相寺 ... 曹洞宗 キリシタン灯籠がある 刈谷市最古の阿弥陀如来座像がある
- ②西勝寺 ... 浄土真宗 昔は天台宗
- ③海会寺 ... 曹洞宗 昔は天台宗か真言宗
- ④長遠寺 ... 日蓮宗 緒川の越境寺の坊さんが道場を開いたのが始まり
- ⑤専光寺 ... 浄土真宗 昔は天台宗 往生要集と美濃国鍛冶系図は県指定文化財

長遠寺は緒川の越境寺の支店?

五ヶ寺について気のついたことを整理してみると以下のように……

- ① 西勝寺は真宗大谷派、十王山と号す、石畳が立派な参道・本堂は乾坤院と同じく九

間の白壁の大きさ。印象に残る説明はなし。

② **実相寺**では本堂に上がってお参りをしたが、ガイドの方が阿弥陀如来座像のことをとても分かりやすく説明してくれた。そのガイドは私たちの会員でもある加藤さんでした。

この阿弥陀如来座像は10世紀末頃に造られたとされ、現在刈谷市域で確認できる最古の仏像。指が破損していたが修復され、像の後ろにある光背もなかったが新たに加えられたと言う。手を加えるのはいかがなものかと思ったが、現在は市指定の文化財(文化財は写真撮影ができない)になっている。

それと右の写真はキリシタン灯籠、緒川の越境寺の物に比べると、あまりそれらしくない、と感じた。これは文化財ではないので撮影できた。



③ **海会寺**は「かいえいじ」と呼び、昔は天台宗か真言宗であったという。応永年間(1394～1427)に遠州浜松の晋濟寺の利山義聰和尚がここに逗留し、当寺の和尚が帰依し、曹洞宗に改宗した。本尊の聖観音菩薩立像は平安末～鎌倉の作だとされ、愛知県の有形文化財に指定されている。境内にはいろいろな仏様の像がある。

④ **長遠寺**は「ちょうえんじ」ではなく「じょうおんじ」と呼び、東浦とかかわりのあるお寺さんであることを知り驚いた。京都妙満寺派頭本法華宗の越境寺の隠生円如坊日信がここに隠居した道場から始まったという。今流ならば支店といってもよいだろうか、これはひょっとして、水野忠政が刈谷に進出したことが少なからず影響をしているのだろうか。そんな風に考えてみると、歴史を知ることが大変興味深いものがある。それとこのお寺さんは、過去に災害で壊されたことから鉄筋コンクリートで作られているのが特徴。



⑤ **専光寺**は真宗大谷派に属する。立派な山門を入ると、とても大きな楠が出迎えてくれる。この

楠は蓮如上人お手植の楠木と伝えられている。本堂も立派だがこの楠に圧倒されて他のことは覚えていない。この寺には県指定文化財の「往生要集」と「濃国鍛冶系図」がある。ちなみに楠は市指定の文化財である。

「お大」と「お富」の画像

専光寺を出て松阪町の信号横まで戻り、集合場所の楞嚴寺に到着。

このお寺は海会寺に多くの修行僧が集まり手狭となったために、応永20年(1413)新たに開かれたもの。第7世古堂周鑑の時刈谷城主水野家の菩提寺となった。

山門を入ると緑の芝生がとても鮮やかで、手入れの行き届いた庭はすがすがしさを感じる。この境内の掃除は住職自ら行っているとか、維持することは大変な労力を要すると思う。ここでは県指定の「伝通院画像」や、市指定の文化財「華陽院画像」「水野忠重画像」と「伝通院調度品」を拝観して、ガイドさんの説明を受けた。県指定の「伝通院画像」は本物ではなく複製品だが、現在の複製品の技術レベルは高く、本物と変わらぬほどとか。以前にも拝観したことがあるが、お大・お富の画像の着物が実によく似ていることから、いろいろなことが推測されているようである。



水野家廟所の全体



奥が水野信元の墓

このあと墓地に回り水野家廟所の説明を受けた。以前の姿と見違えるように整備され

ており驚いた。以前は墓石が傾いていたのを覚えているが、今は立派な土塀で囲まれ水野家の威厳が感じられるものになっていた。水野信元と水野忠重のお墓と、その室・子どもたちの墓がある。しかし、水野家菩提寺と

はいえ初代刈谷藩城主となった水野勝成は、刈谷以上に福山で活躍したことから彼のお墓はここにはない。それがちょっぴり寂しい気がしてならない。

それと、このお墓の特徴として水野信元のお墓には戒名が付いていない。下の写真が信元のお墓、墓石の文字までは判読できないが、彼の最後は盟主の信長の命により家康に打たれた。つまり、罪人扱いであり仏様にはなれないことを意味する。このことを友に教えられ、なるほどとうなずけた。したがって、このお墓はしばらくして後に緒川に忠守、刈谷に忠重が復権した時に建立された可能性が高いとみられる。



廟所の配置図



水野信元の墓

今回の史跡めぐりも多くのことを知ることができて、とても有意義であった。